

北朝鮮問題に対する 日米の大学生の見解



フリーランド圭子

会田裕馬

ジョナサン・ファン

アドバイザー

齋藤-アボット佳子教授、関根繁子教授

概要

- 研究の重要性
- 研究質問
- 研究背景
- 研究方法
- 研究結果
- 結論
- 参考文献
- 謝辞

研究の重要性

フリーランド： 日本人として、拉致された人たちの安全な帰還を案じている。また北朝鮮の日本に対する行動に脅威を感じており、それに対する日米政府の対応を知りたい。

会田： 日本への留学中、テレビでよく北朝鮮の独裁政権に関するニュースが放映されていました。アメリカ育ちの私は、北朝鮮問題への認識が低かったため、米国の学生がどのような視点をもっているのかしりたかった。

ファン： 北朝鮮のミサイル発射実験と核兵器の脅威についてのニュース耳にし、他国に緊張を巻き起こす北朝鮮問題について興味を抱いた。また、どのようにアメリカの学生がこの問題について認識しているかを知りたかった。

研究質問

1. 北朝鮮政府に対する日米大学生の見解は何か
2. 北朝鮮と対立している問題に対して、
日米の大学生はどのような認識を持っているのか
3. 北朝鮮との対立問題に対し、
日米の大学生はどのように解決案を考えているか

研究背景

- 北朝鮮と金ファミリーの歴史
- 北朝鮮との対立問題
 - 日本人拉致問題
 - 核兵器実験とミサイル打ち上げ実験
- 北朝鮮政府のリーダーシップ
 - 北朝鮮と米国との政府体制と軍事費比較
 - 人権問題と法律通過法
- 北朝鮮問題の可能な解決策
 - 新しい制裁
 - 北朝鮮との会談

北朝鮮の歴史

第二次大戦後 1948年

- 朝鮮半島は、北緯38度線より北朝鮮と韓国に2分割された
- 北朝鮮はソビエト連邦の支配下
韓国はアメリカの影響下
- ソビエト連邦は、北朝鮮のリーダーに金日成(キムイルソン)を指名



(“History of North Korea”, 2011)

金ファミリーの政策



金日成 キム・イルソン

在職期1972-1994

金日成崇拜政府
の形成

国外旅行制限
メディアの制限
所有物の制限
拉致問題の発生



金正日 キム・ジョンイル

在職期間 1994-2011

ソ連からの
支援依存度が高い



経済悪化
深刻な食料不足



金正恩 キム・ジョンウ

在職期間 2011 -

核兵器開発プログ
ラムの拡大

ミサイル打ち上げ
実験の拡大

人権侵害の悪化

軍事力の強化



(Sang-Hunau,2017)

金日成(キムイルソン)政権下に発生した日本人拉致問題



いつ 1970年代～1980年代

どこで 日本沿岸部とヨーロッパ

拉致被害者数 17名(政府認定数)
それ以上の可能性大
(Boynton, 2016)

目的

1. 拉致した日本人になりすました北朝鮮工作員を、韓国へ送り込むため
2. 拉致した日本人被害者から、北朝鮮工作員の育成のため、日本語や日本文化の教育を行わせるため

(Think, 2007)

日本人拉致問題に対する日本政府、北朝鮮政府の対応

日本政府	北朝鮮政府
<ul style="list-style-type: none">● 17名の日本人拉致者の返還要求	日本人拉致を20年間否定
<ul style="list-style-type: none">● 2002年9月 小泉首相が金正日を訪問	13名の日本人拉致を認め、謝罪 2002年10月、5名が帰国 8名は死亡と報告
<ul style="list-style-type: none">● 死亡者とするDNAは別人と判明● 拉致被害者変換の抗議継続	残りの12名の拉致否定の継続

(“Individual Cases,” 2017)

政府の体制比較

北朝鮮

- 政府の体制
 - 社会主義共和国
- 政府の役割
 - 軍事力を高め、国を強く見せる
- 金正恩の独裁政権

米国

- 政府の体制
 - 米国憲法に基づく連邦共和国
- 政府の役割
 - 連邦政府と州と権力を分割する
- 憲法に基づく民主主義政治

北朝鮮と米国の重罪と軽犯罪の比較

北朝鮮

- 重罪
 - 公開死刑、拷問
 - 政府への反逆、食料の盗難
- 軽犯罪
 - 強制収容所、死刑
 - 暴力、他の国に逃げる

米国

- 重罪
 - 死刑(州別)懲役実刑
 - 殺人、強盗、放火
- 軽犯罪
 - 警告、罰金
 - 万引、スピード違反

北朝鮮の人権問題

食料問題



ソ連の経済崩壊により北朝鮮の経済が弱体化し、食糧が大幅に不足

労働問題



北朝鮮政府は北朝鮮労働者を海外に派遣し、外貨収入を得る

医療問題



結核や白内障など予防が容易な病気に苦しんでいる

自由がない北朝鮮

政府の自由制限

行動の自由がない
北朝鮮市民が自国を
離れることは違法である

情報の自由がない
金正恩政権は報道と情報の
権威と管理権を持っている

言論の自由がない
北朝鮮の政権や指導部に対
する批判はない

宗教的自由がない
組織化された宗教は
許されない

(Freedom of Thought Report, 2017)

北朝鮮政府の形式上合意通過法

最高人民会議



国家の政策と予算の決定、
採用、修正

常任会



国家機関の法律を監督し、
外国との条約を批准する

北朝鮮内閣



国家管理に関する
補足規則憲法

北朝鮮と米国の軍事予算比較

北朝鮮

米国

- 軍事費: 100億ドル
(国家予算の22%)

- 食糧生産や教育を軽視

軍事費に
焦点

経済低迷

- 軍事費: 8,246億ドル
(国家予算の57%)

- 海外援助の大幅削減
- 温暖化対策への予算の削減

(America's Defence Budget vs. North Korea, 2017)

ミサイルプログラムの拡大



金正恩の
ミサイルプログラム

金正恩(キムジョンウン)

- ミサイル開発を最重要視
- 強力な武器で外国の侵略を抑える

(Belvedere, 2017)

北朝鮮の変化

- 韓国での冬季オリンピック(2018.2月)への選手団派遣
- 韓国首脳との会談の実現 (2018.4月)
- トランプ大統領との個別会談予定の可能性

(BBC, 2018)

北朝鮮の核兵器力実験の比較



- 2007年、北朝鮮は100キロトンの核兵器実験を実行
- これは1945年に広島 (15キロトン) と長崎 (21キロトン) に投下された原子力爆弾の4倍から6倍に相当する

北朝鮮のミサイル発射範囲とアメリカの防衛能力



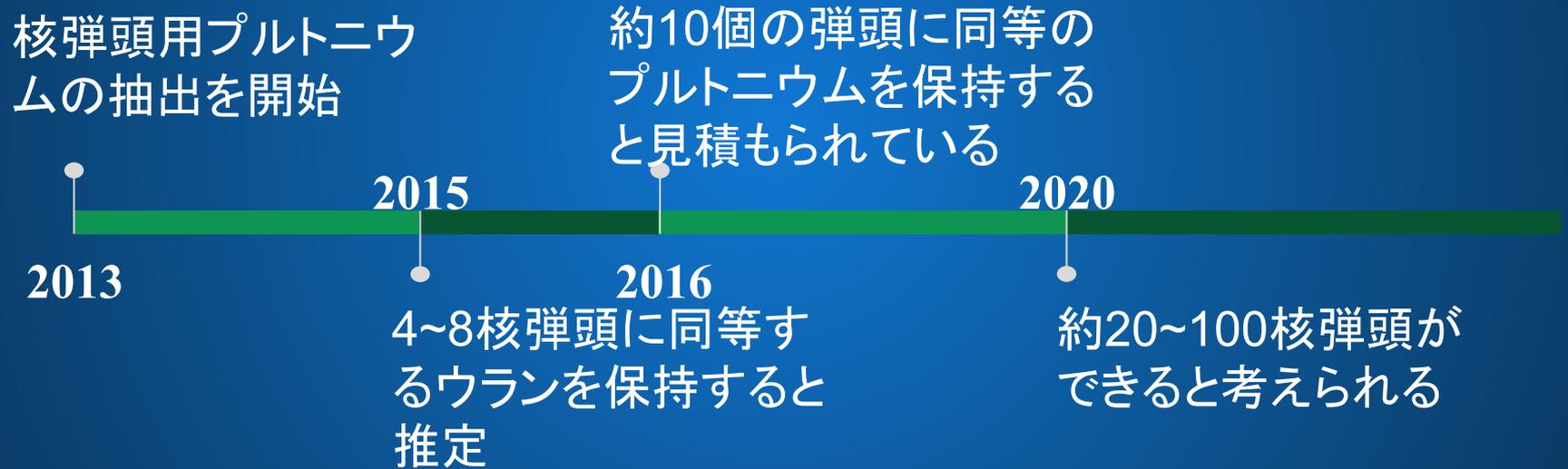
- 北朝鮮は、アメリカ北部までの砲撃可能

(Nevette, 2016)

- それに対するアメリカの防衛能力は未だ不明瞭

(Ferdinando, 2018)

北朝鮮の核開発のタイムライン





北朝鮮問題の可能な解決策

- 新しい制裁
- 北朝鮮との会談

新しい制裁

トランプ大統領によって提案された新制裁措置

- 会社、銀行などの米国金融システムの使用禁止
- 新制裁措置に違反していると思われる個人の資産を押収する
- 過去180日間に北朝鮮に停止した船舶や航空機の入国の禁止

古い制裁と新しい制裁の比較

古い制裁

新しい制裁

オバマ政権

トランプ政権

- 国連からの措置

- 核開発計画に資金を提供してきた活動に焦点を当てた

北朝鮮の核計画を止めることを目指す

- 米国からの措置

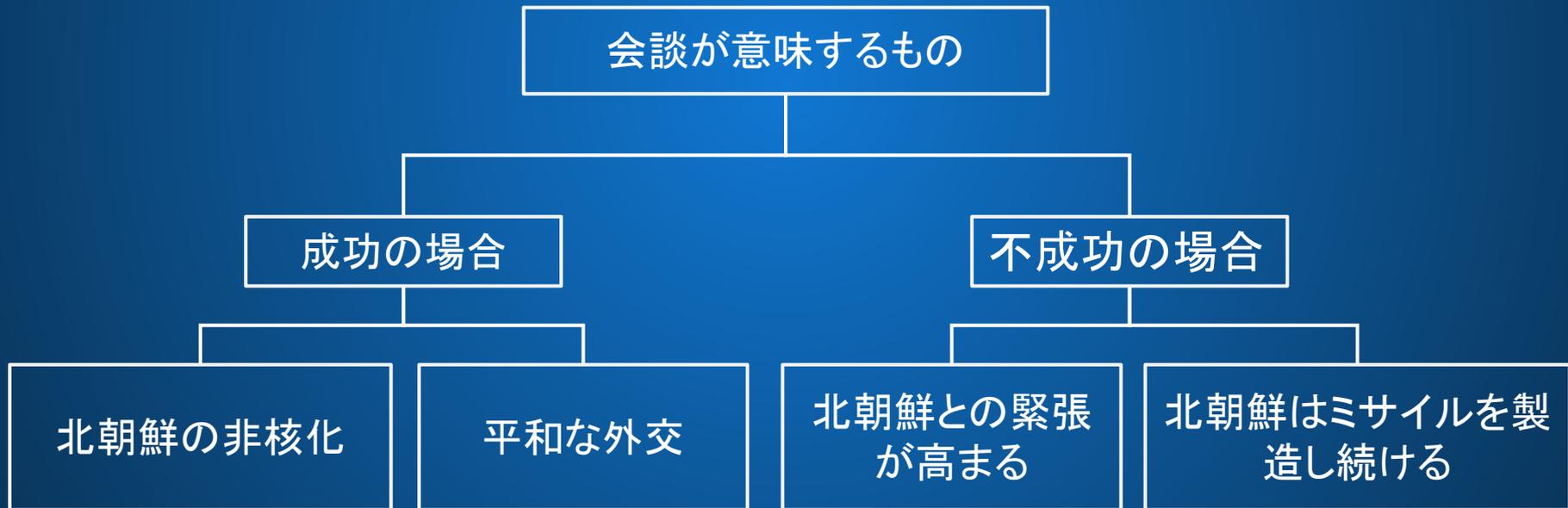
- 北朝鮮経済の成長に関わる企業や団体に焦点を当てる

新しい制裁で何が起こったのか

- 国連は米軍に疑いのある船を調査する権利を与えた
 - 北朝鮮に向かう疑いのある船に乗り込んだ
- 28隻の対北朝鮮制裁に違反の船舶の入港禁止
 - 中国、北朝鮮、シンガポール、台湾、香港、マーシャル諸島、タンザニア、パナマ、コモロ

北朝鮮と米国の会談

- 2018年5月に予定されている首脳会議
- この間ミサイルテストは行われぬ





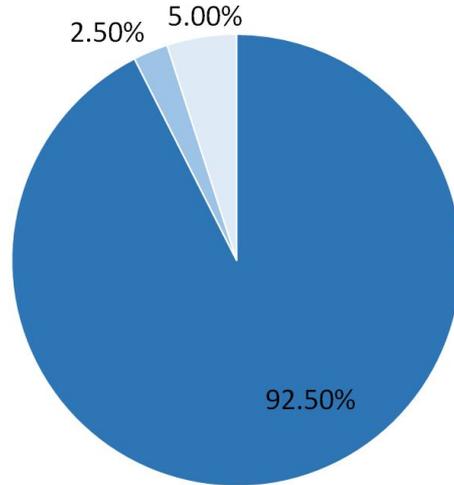
アンケート調査の結果

研究方法

- アンケートの回答者 ○ 86名の大学生
 - 46名の日本人大学生 (18～35歳)
 - 7名の男子学生、38名の女子学生、1人のその他
 - 40名のアメリカ人大学生(18～35歳)
 - 18名の男子学生、22名の女子学生
- 研究調査 ○ オンラインによるアンケート(Google Form)
 - 英語によるアンケート(英語)
 - 日本語によるアンケート(日本語)

出身地はどこですか

アメリカの大学生

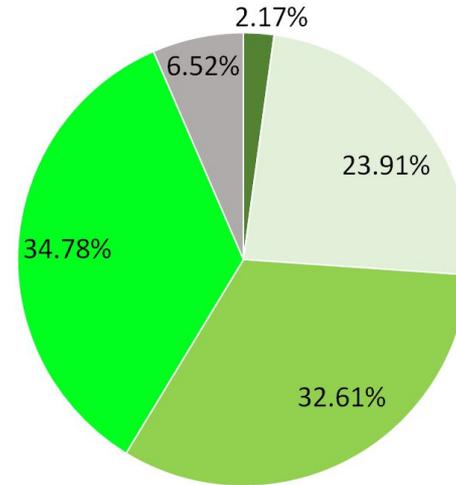


■ カリフォルニア州

■ アリゾナ州

■ モンタナ州

日本の大学生



■ 東日本の日本海側

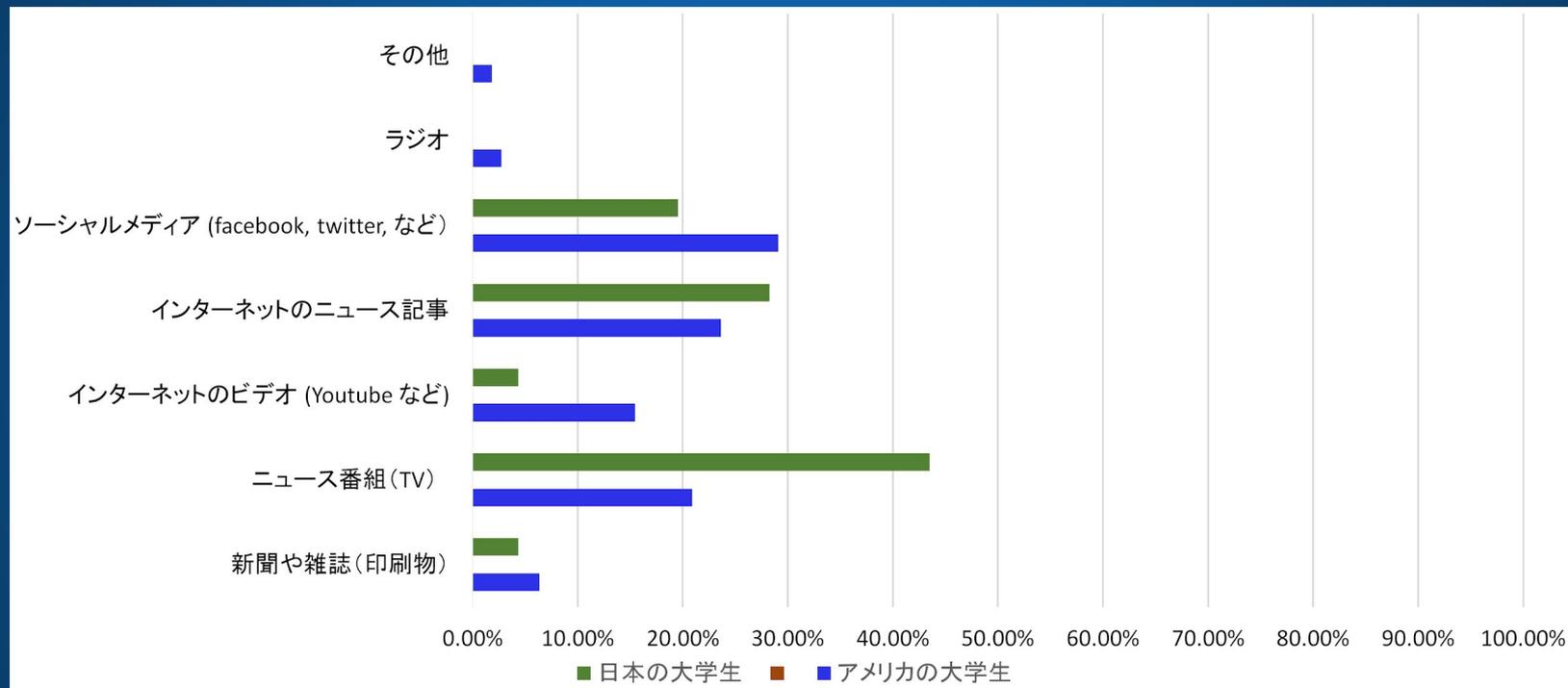
■ 東日本の太平洋側

■ 西日本の日本海側

■ 西日本の太平洋側

■ その他

北朝鮮に関するニュースや情報は、どこから得ていますか



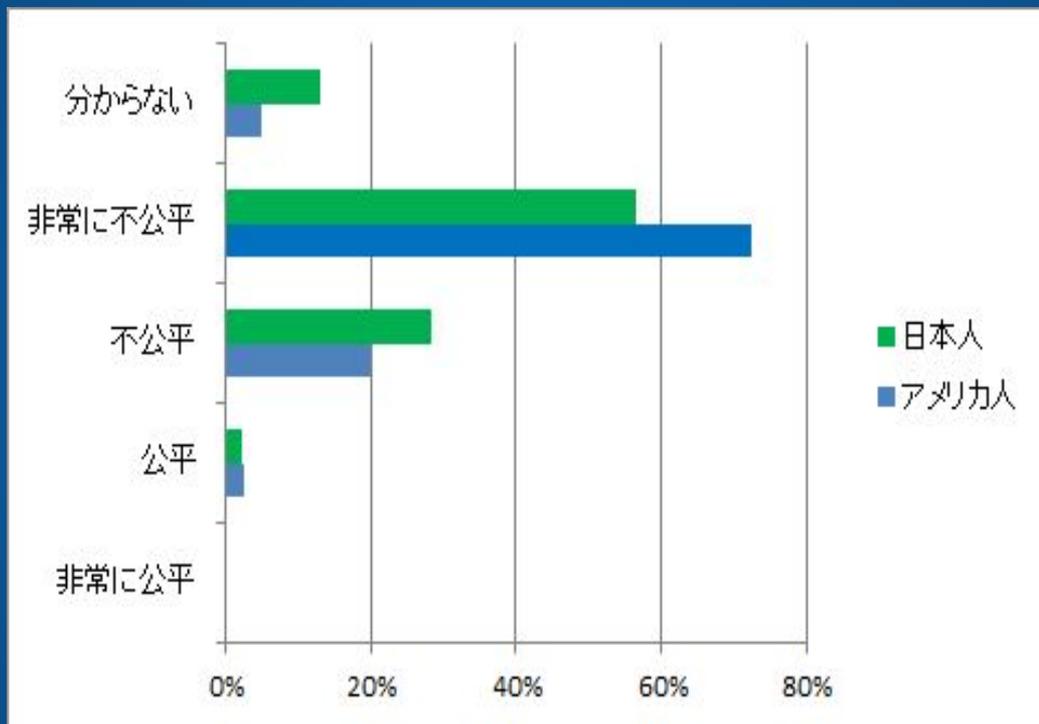
日本人大学生は、テレビのニュース番組からの情報入手が一番多く、一方アメリカの大学生は、フェイスブックやツイッターなどのソーシャルメディア使用が一番の情報源である。

研究質問 1



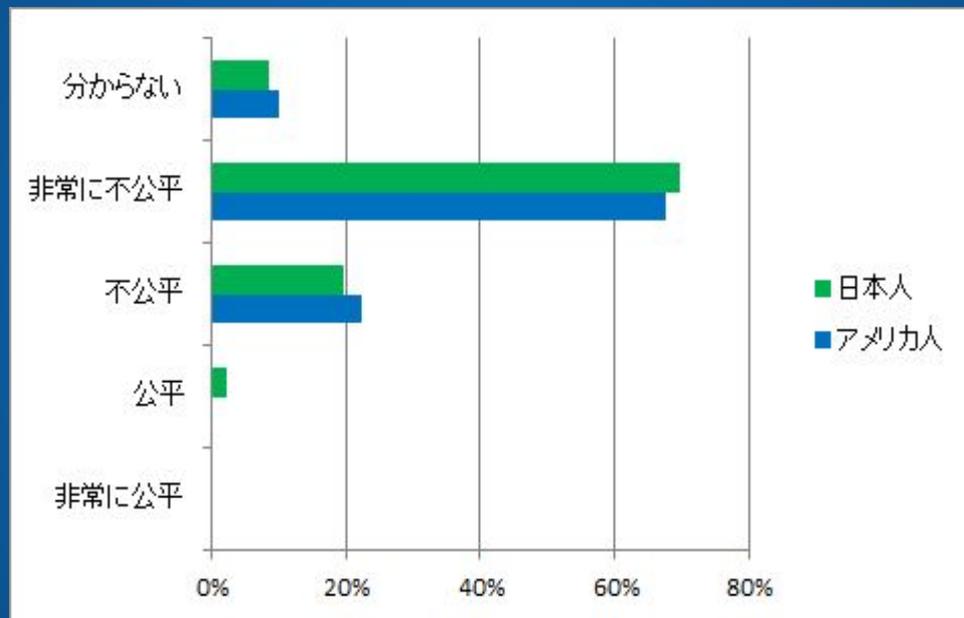
北朝鮮政府(金正恩)に対する
日米大学生の見解は何か

5. 北朝鮮政府についてどう思いますか



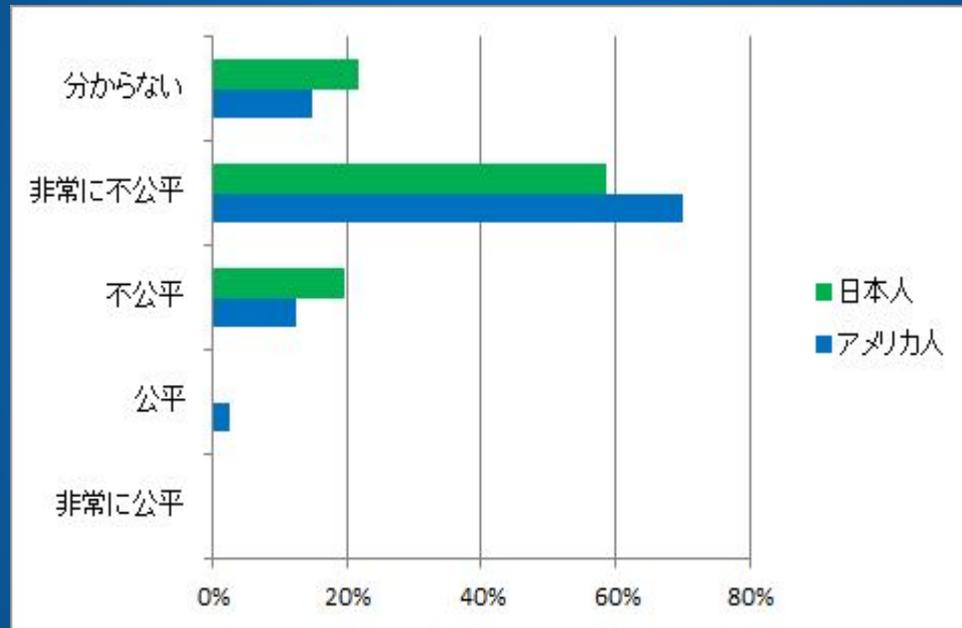
アメリカ人と日本人の学生は、北朝鮮政府が非常に不公平だと思っている

6. 北朝鮮政府による、一般市民に対する扱いをどう思いますか



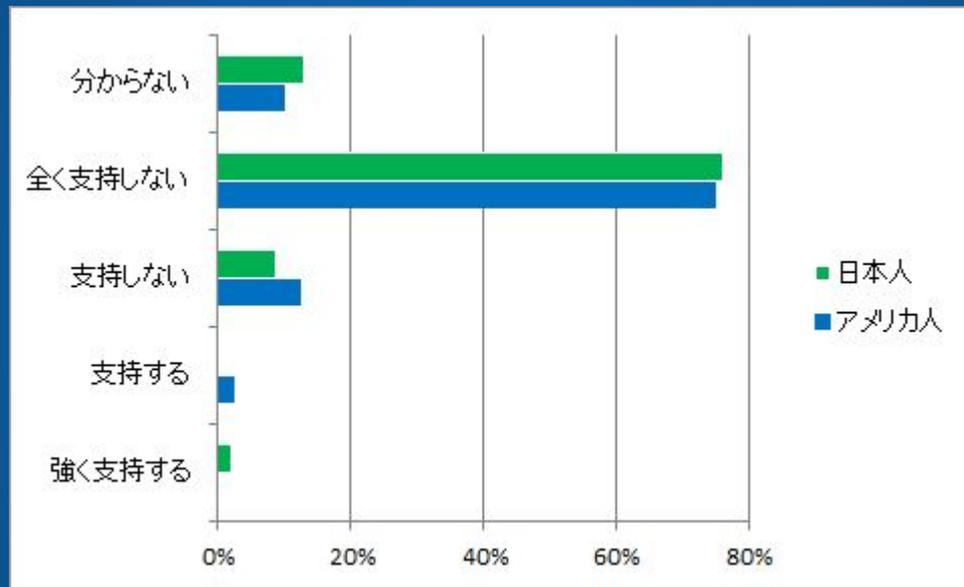
60%以上のアメリカ人と日本人の学生は、北朝鮮の一般市民は非常に不公平に扱われていると考えている

7. 北朝鮮政府による、法律を破った者に対する 対応についてどう思いますか



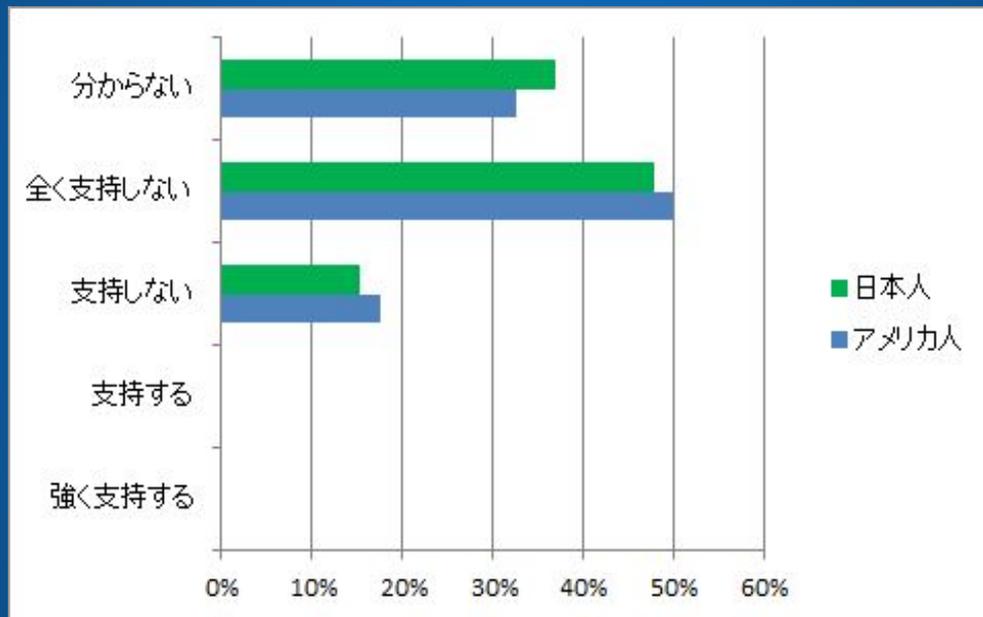
アメリカ人の70%と日本人の58.7%の学生は、政府の対応について不公平、又は非常に不公平だと感じている

8. 北朝鮮政府による、北朝鮮の一般市民の言論の自由に関する制限についてどう思いますか



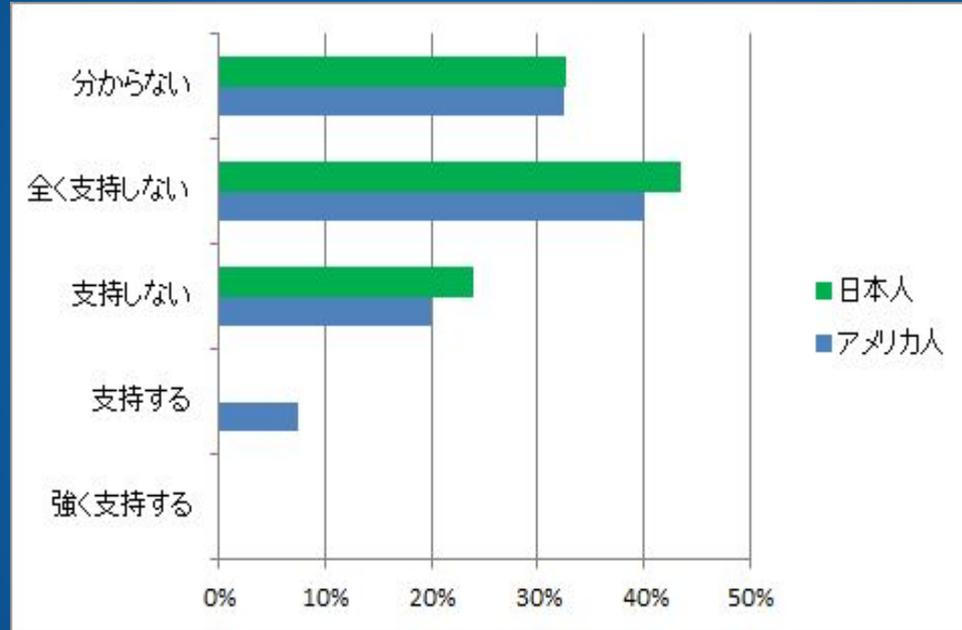
アメリカ人と日本人の学生の8割近くが言論の自由の制限を全く支持していないことがわかった

9. 北朝鮮政府による、法律の決め方についてどう思いますか



ほとんどのアメリカ人と日本人の学生は、政府の法律の決め方を支持していないことがわかり、一方、わからないと答えた学生も3割を超えた

10. 北朝鮮政府の軍事予算について、どう思いますか



アメリカ人と日本人の学生のほとんどが、北朝鮮の軍事予算を支持しないと答えたが、わからないと答えた学生も3割を超えた

研究結果1.のまとめ

全体として、日米両国の学生は、市民を平等に扱わない北朝鮮に否定的な考え方を持っている

日本人とアメリカ人の学生は、自由の制限に強く反対する一方、北朝鮮の法律の決め方や軍事予算に関しては、よく分からないと答えた学生が多かった

日本の学生の方がアメリカの学生より、北朝鮮の国費の軍事費に占める割合の高さに懸念を示している

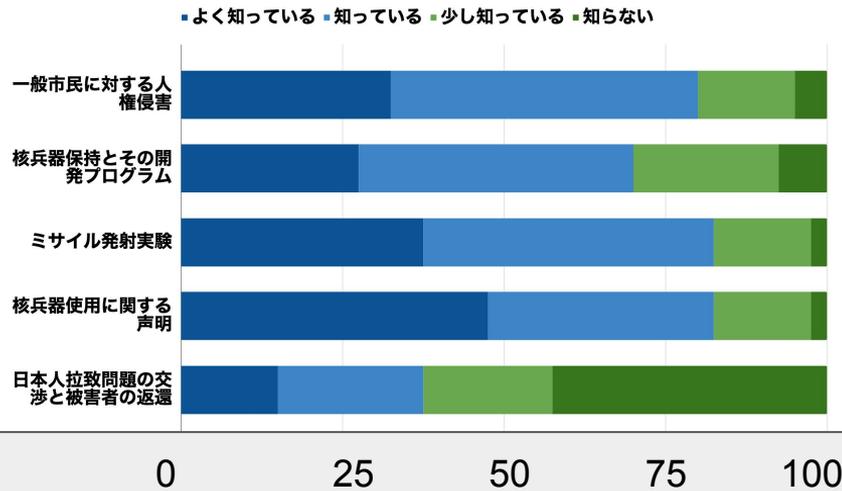
研究質問 2



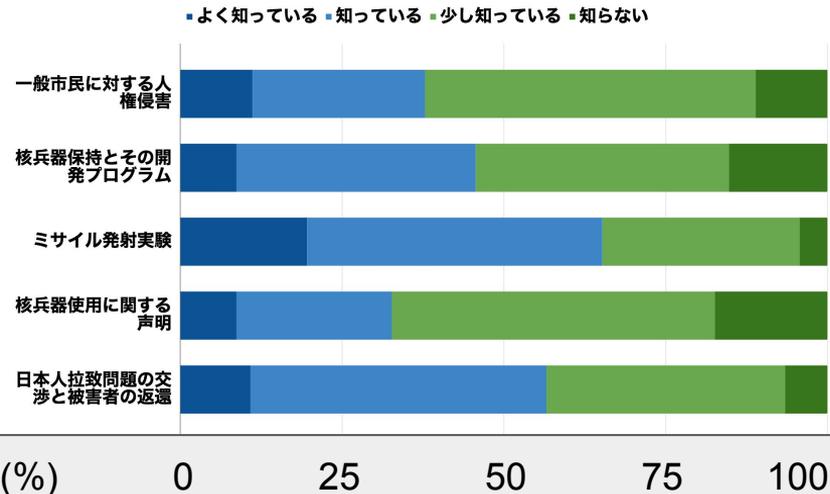
北朝鮮と対立している問題に対して
日米の大学生はどのような認識を持っているのか

11. 下記の北朝鮮との対立問題について あなたはどの程度認識がありますか

アメリカ人の大学生



日本人の大学生

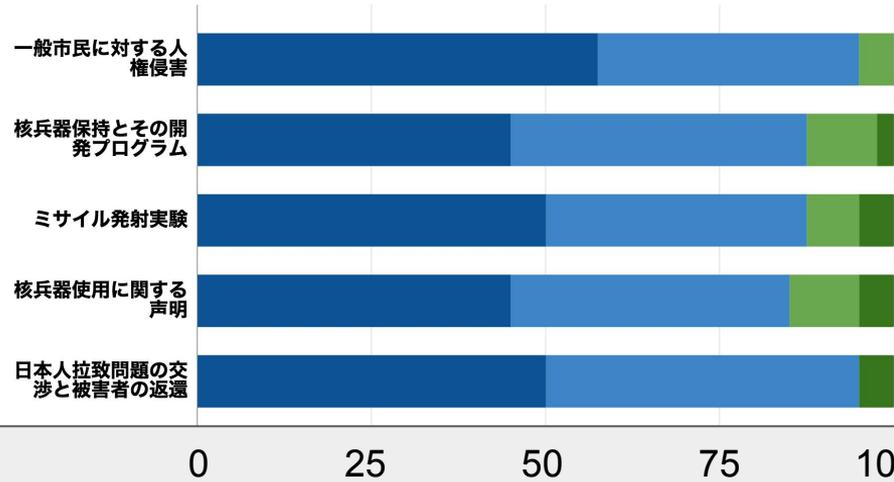


アメリカ人の学生は、人権侵害、核兵器開発プログラム、ミサイル打ち上げ実験、核兵器使用に関する声明については日本人の学生よりも認識が高い。その一方日本人の学生は日本人拉致被害者の返還交渉に関してアメリカの学生よりも認識度が高い

12. 下記の北朝鮮との対立問題について あなたはどのくらい懸念していますか

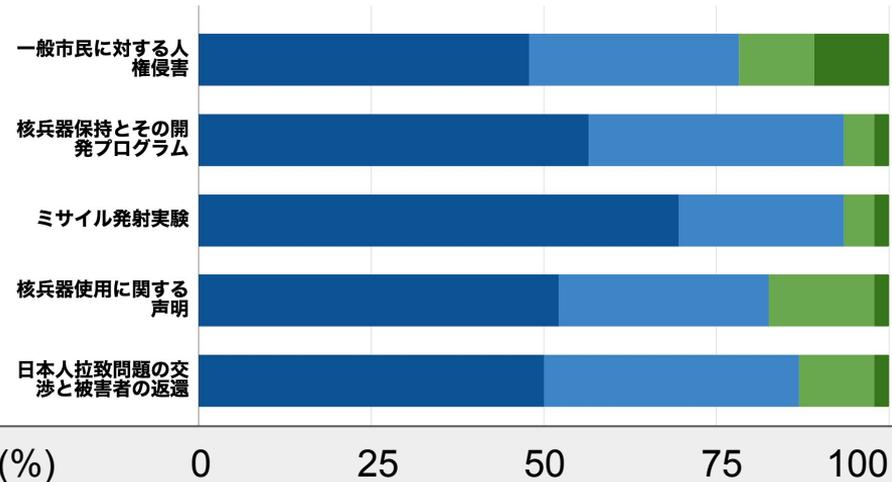
アメリカ人の大学生

■非常に懸念している ■懸念している ■少し懸念している ■懸念していない



日本人の大学生

■非常に懸念している ■懸念している ■少し懸念している ■懸念していない

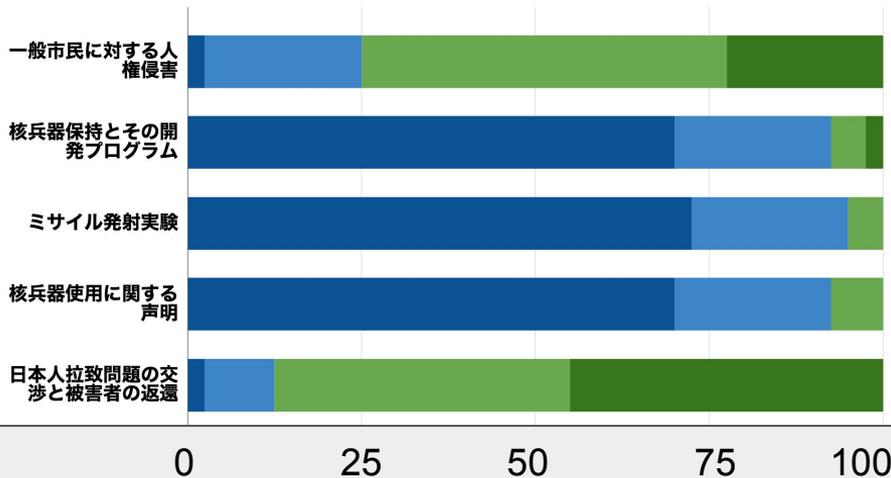


日本人の学生は核兵器開発プログラム、ミサイル打ち上げ実験についてはアメリカの学生よりも、より強い懸念を抱いている。また**アメリカ人の学生**は人権侵害、日本人拉致被害者の返還交渉問題について日本人の学生よりも、強い懸念を示していることが分かった。

13. 次の事項について、米国政府はどの程度懸念していると思いますか

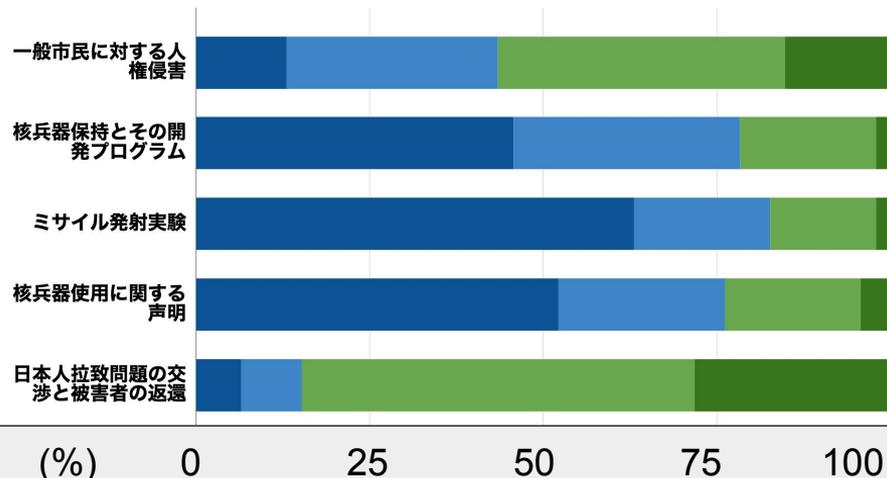
アメリカ人の大学生

■非常に懸念している ■懸念している ■少し懸念している ■懸念していない



日本人の大学生

■非常に懸念している ■懸念している ■少し懸念している ■懸念していない

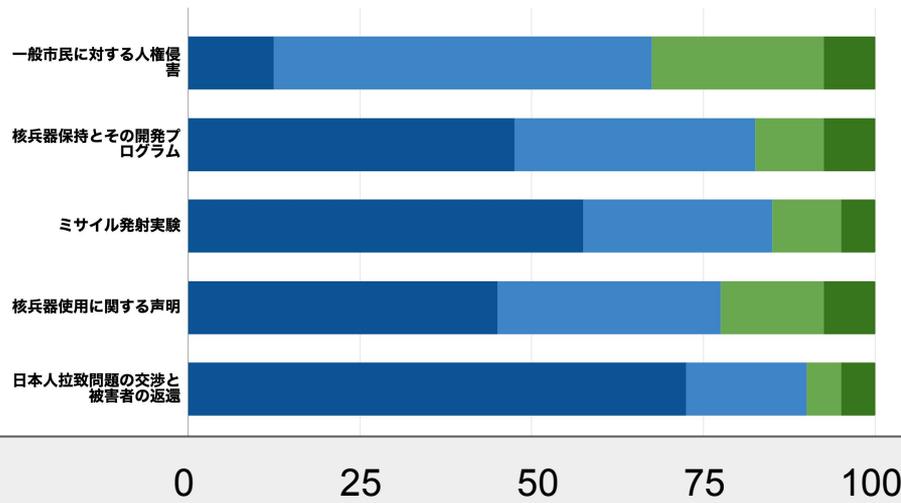


90%以上のアメリカと70%以上の日本の両学生は、米国政府が、核兵器開発プログラム、ミサイル打ち上げ実験、核兵器使用の声明について懸念していると考えている。しかし人権侵害や日本人拉致者の返還に関しては、両国ともに米国政府はあまり懸念していないと考えている

14. 次の事項について、日本政府は、 どの程度懸念していると思いますか

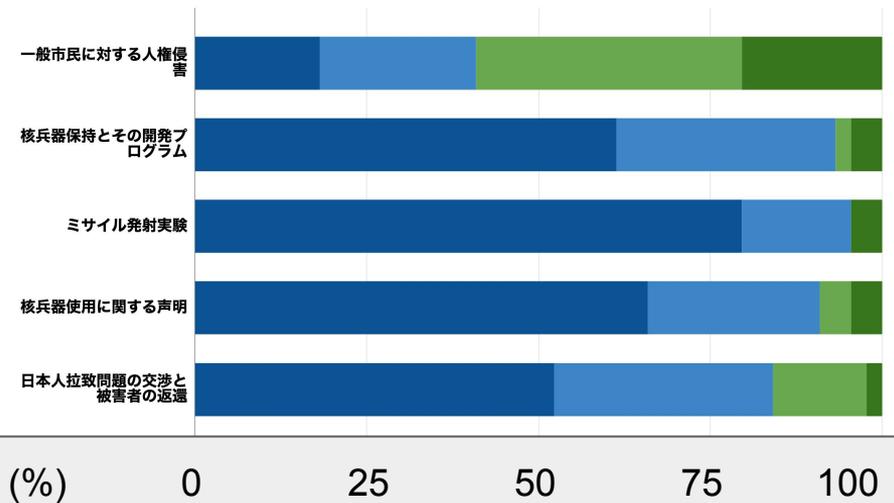
アメリカ人の大学生

■非常に懸念している ■懸念している ■少し懸念している ■懸念していない



日本人の大学生

■非常に懸念している ■懸念している ■少し懸念している ■懸念していない

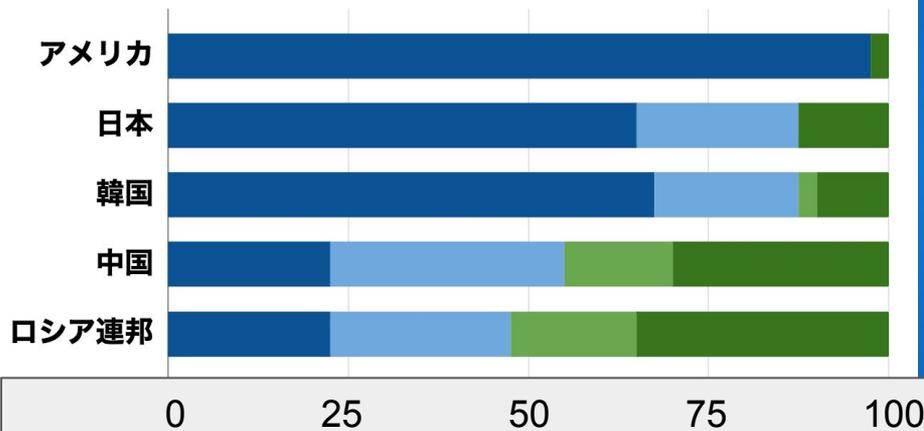


95% の日本人の学生は、日本政府は北朝鮮のミサイル打ち上げ実験を懸念し、**90%のアメリカ人の学生**は、日本政府が日本人拉致被害者の返還交渉問題について懸念していると考えている

15. 北朝鮮のミサイル打ち上げテストや核兵器実験は北朝鮮がどの国を意識しての実験だと思いますか

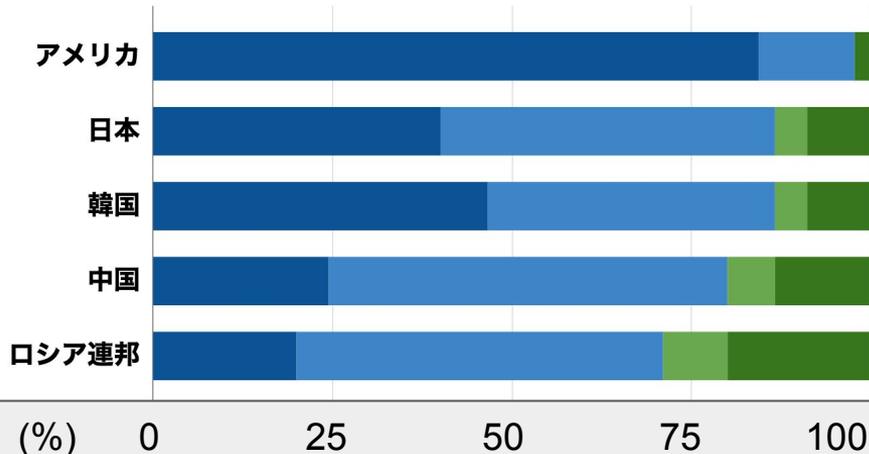
アメリカ人の大学生

- 強く意識している
- 少し意識している
- 意識していない
- 分からない



日本人の大学生

- 強く意識している
- 少し意識している
- 意識していない
- 分からない



日米両国ともに**97%**の学生が、北朝鮮の核兵器開発やミサイル打ち上げ実験の主な標的国は、アメリカを強く意識していると考えている。また、その他の標的国として、日本と韓国がアメリカに続いている

研究結果2.のまとめ

日米両国の大多数の学生は、北朝鮮の核兵器開発や兵器使用について強い懸念を示している一方、日本人拉致被害者の交渉問題は、日本人の学生よりアメリカ人の学生の方がより案じている

アメリカの多くの学生は、日本政府は拉致問題について最も懸念していると考えているのに対し、日本の多くの学生は、日本政府はミサイル打ち上げ実験についてを最も懸念しているとの見解の違いが見られた

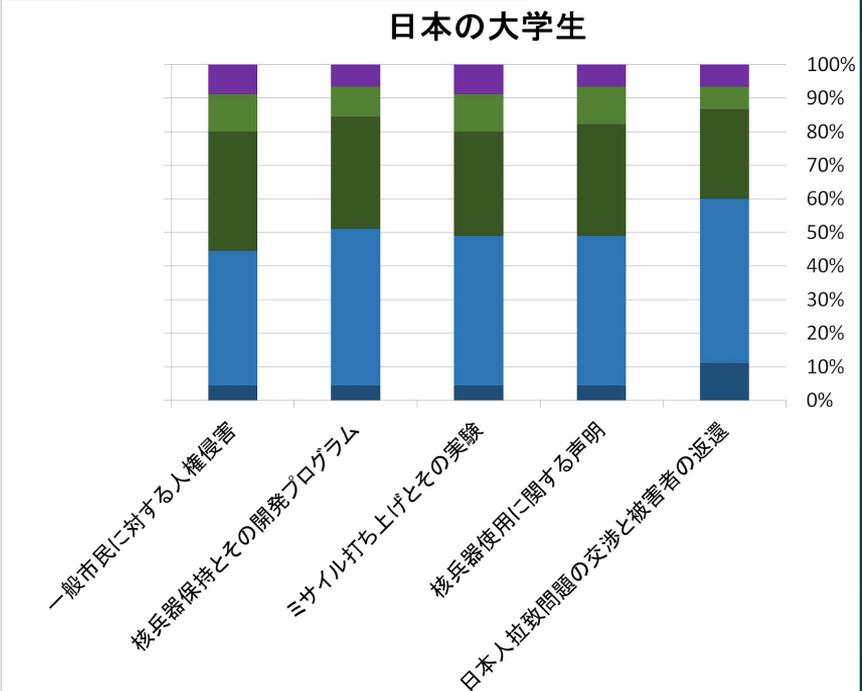
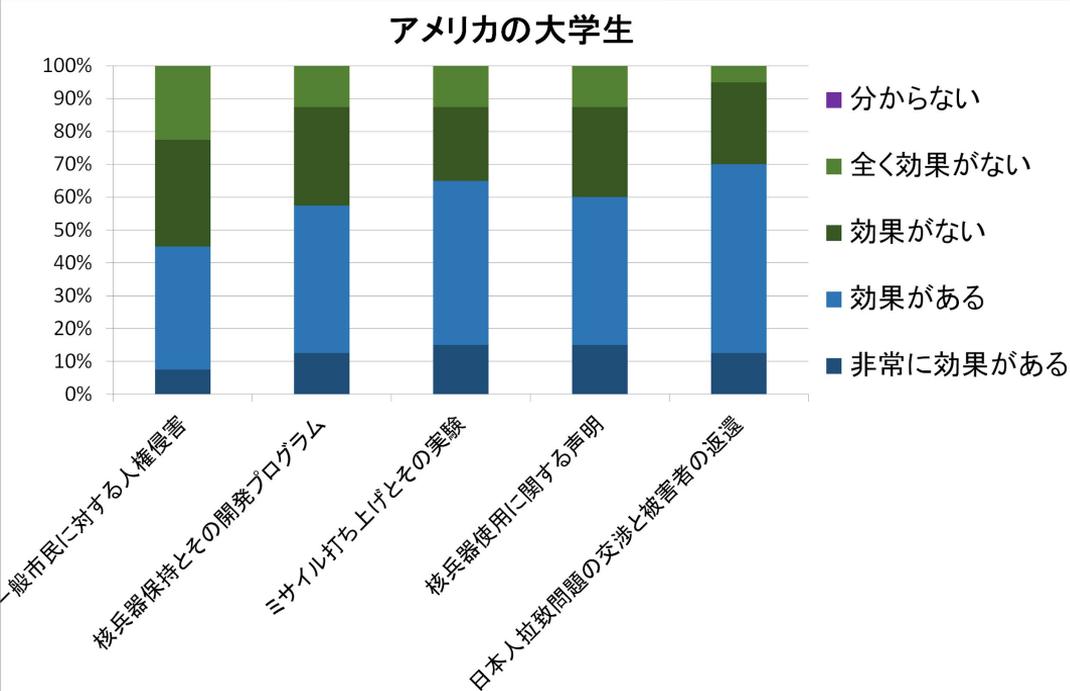
日米のほとんどの学生は、北朝鮮の核兵器実験の一番の標的国は、アメリカだと思っている。その他の標的国として日本、韓国と続いている



研究質問 3

北朝鮮との対立問題に対し
日米の大学生はどのように解決案を
考えているか

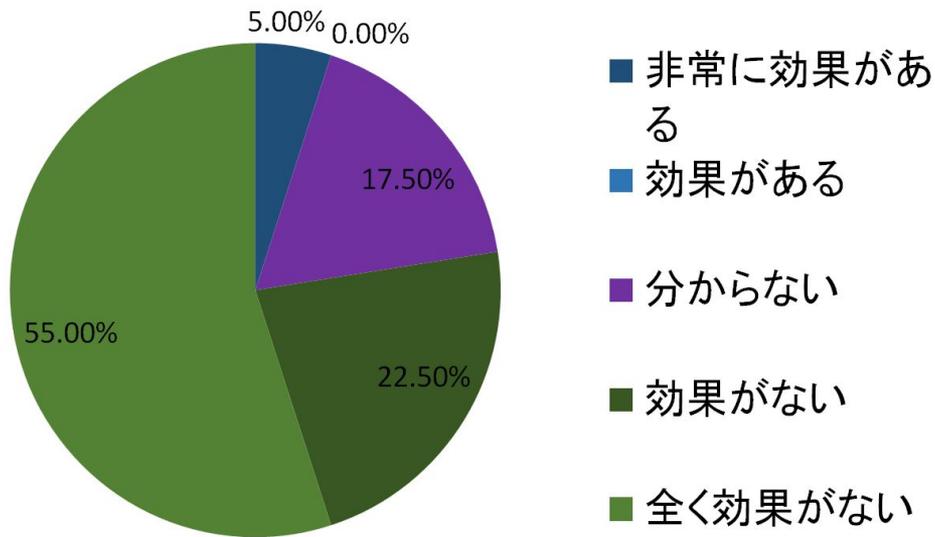
16. 下記の問題解決について、平和的な話し合いは効果があると思いますか



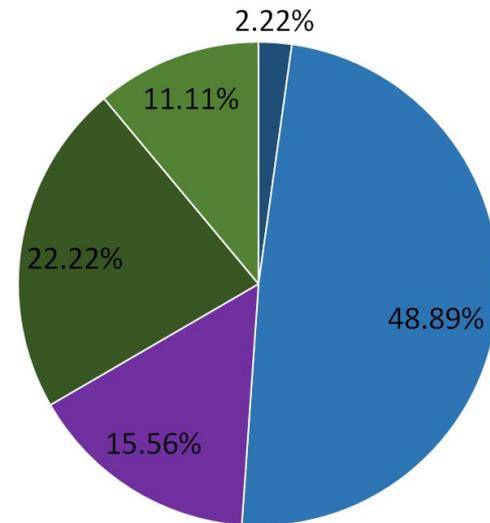
平和的な話し合いが北朝鮮問題に対して効果があると考える学生の割合がより高い

17.北朝鮮の核兵器保持やその開発プログラムの問題解決のための、トランプ大統領の発言についてどう思いますか

アメリカの大学生



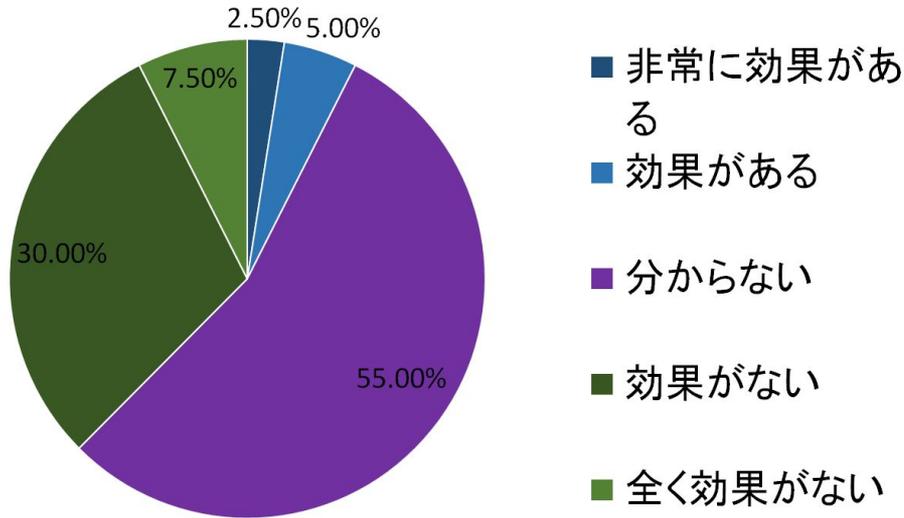
日本人の大学生



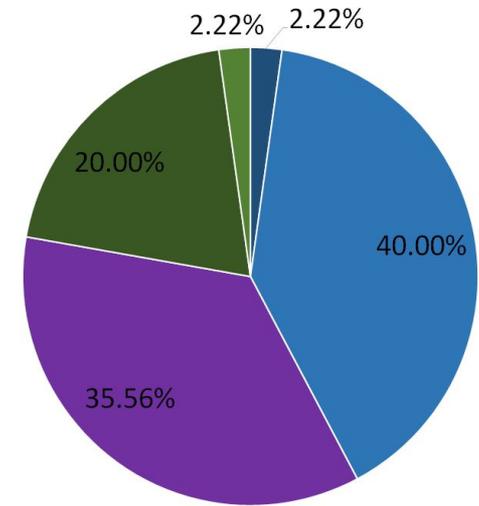
約50%の日本人の学生は、トランプ大統領からの発言が有効であると考えているのに対し、アメリカ人の学生の約77%が効果がないと考えている

18.北朝鮮の核兵器保持とその開発プログラムを阻止するための、新しい制裁措置(トランプ大統領が提案した国連の経済的圧力)についてどう思いますか

アメリカの大学生



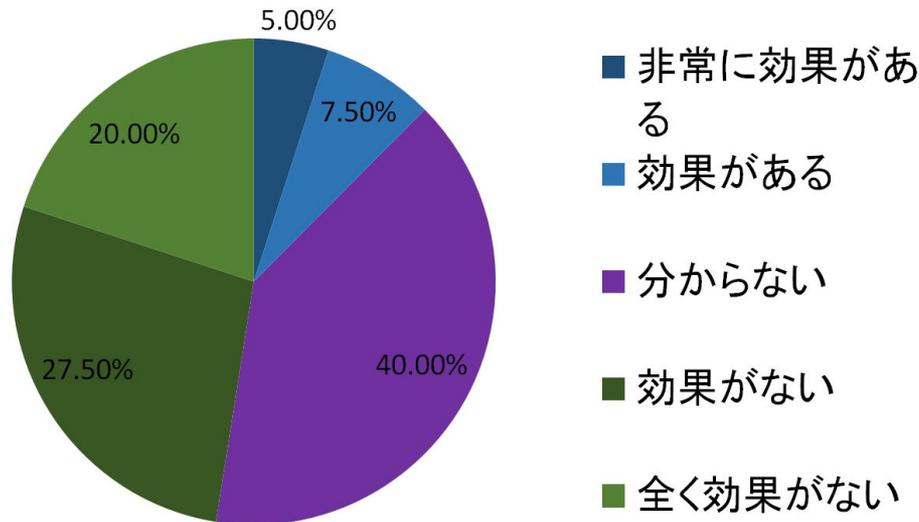
日本の大学生



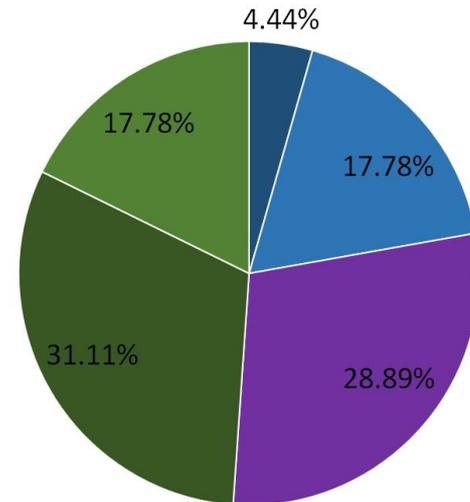
日本の学生の約40%は新制裁が効果的だと思っているが、55%のアメリカ人学生は効果がないと考えている

19.北朝鮮問題解決のために、軍事行動を起こすこと についてどう思いますか

アメリカの大学生



日本の大学生



軍事行動の有効性に関する両学生の考えは類似しているが、
アメリカの学生より約10%多くの日本人の学生は効果的であると
考えている

研究結果3.のまとめ

両国の学生の半数は平和的な話し合いが北朝鮮問題に対して効果があると思っている一方で、軍事行動の有効性を信じる日本の学生の割合はわずかに高い

核兵器保持、開発に関するトランプ大統領の発言に関しては半数近くの日本人の学生が効果があると考えているがほとんどのアメリカ人の学生は効果がないと思っている

制裁措置に関して効果があると回答したアメリカ人の学生の数は非常に少ないのに対し、半数近くの日本人の学生は制裁効果があると考えている

結論と考察

日米両国の学生の大部分が、北朝鮮政府に対して否定的な考えを抱いており、これはおそらくメディアの影響からだと思われる。また「わからない」と答えた学生も少数ではなく、これは北朝鮮政府が閉鎖的で情報の公開がなく、正確な体制を知ることができないからだと考えられる。

日本人の学生は安全性に対する危機感からか、北朝鮮の核兵器開発使用問題とミサイル打ち上げ問題について強い懸念を示し、アメリカ人の学生は多国籍の国民性から来る人権への尊重重視性からか、日本人の返還問題などの人権侵害についてより強い懸念を示していることが分かった

トランプ大統領の声明の有効性、新たな制裁、軍事行動について、両国の学生の意見は異なる。しかし日米の学生の過半数が、北朝鮮との対立には平和的な議論が問題解決になる可能性があると考えている一方でより積極的な対応に期待している日本人の学生も少なくなかった

北朝鮮の最新情報

- 南北首脳会議が11年ぶりに実現(2018年4月27日)
金委員長と文大統領が朝鮮半島の対談
非核化、平和定着、南北関係の発展を目指す共同宣言に署名
- 日本の拉致被害者の解決への期待も高まっている



研究の限界点と将来の研究課題

研究の限界点

- 北朝鮮の閉鎖的な国柄と日々変化のある課題のため、研究背景のための正確で学術的な情報源が見つげにくかった
- アンケート調査参加者が、女性多数だった
- ほとんどのアメリカ人の学生はカリフォルニア出身だったため結果は一般化はできない

将来の研究課題

- どのように核兵器開発を開発、拡大できたのか
- 日本人拉致被害者の帰還後の生活について
- 北朝鮮の市民の生活の詳細

参考文献 1/3

- BBC Staff. (2018). *North Korea to send team to Winter Olympics Games*. BBC. Retrieved April, 17. From <http://www.bbc.com/news/world-asia-42600550>
- BBC Staff. (2018). *Koreas make nuclear pledge after historic summit*. Retrieved April, 26. From <http://www.bbc.com/news/world-asia-43921385>
- Belvedere, B. (2017). *Fears of a North Korean Warhead*. Retrieved December 01, 2017. From <https://arcdigital.media/fears-of-a-north-korean-warhead-f609cf6008fe>
- Boynton, R. (2016). *Did North Korea Really Abduct Japanese People?* Retrieved December 01, 2017, from <http://jpninfo.com/tag/robert-boynton>
- Campbell, C. (2017). *The Despotic Dynasty: A Family Tree of North Korea's Kim Clan*. Retrieved December 01, 2017, from <http://time.com/4681304/north-korea-kim-family-album/>
- Fact Sheets & Briefs*. (2017, October). Retrieved December 01, 2017, from <https://www.armscontrol.org/factsheets/Nuclearweaponswhohaswhat>
- Ferainando, L. (2018). *Missile Defense Agency Director Outlines Priorities, Threats*. Retrieved March 20, 2018, from <https://www.defense.gov/News/Article/Article/1459931/missile-defense-agency-director-outlines-priorities-threats/>
- Foundation of The Korean friendship association*. (n.d.). Retrieved December 01, 2017, from <http://www.korea-dpr.com/kfa.html>
- History of North Korea*. (2011). Retrieved April 30, 2018, from <https://www.libertyinnorthkorea.org/learn-north-korea-history/>
- Individual Cases - 17 Abductees Identified by the Government of Japan*. (2011, May). Retrieved November 30, 2017, from <https://www.rachi.go.jp/en/ratimondai/jian.html>
- Landler, M. (2018, February 23). *Trump Announces Harsh New Sanctions Against North Korea*. Retrieved March 14, 2018, from <https://www.nytimes.com/2018/02/23/us/politics/trump-north-korea-Sanctions.html>

参考文献 2/3

- Landler, M. (2018, March 09). *Trump Accepts Kim Jong-un's Invitation to Meet*. Retrieved March 14, 2018, from <https://www.nytimes.com/2018/03/08/us/politics/north-korea-kim-jong-un-trump.html>
- Nevett, J. (2017). *MAPPED: These are the cities North Korea CAN destroy with nuclear weapons*. Retrieved November 30, 2017, from <https://www.dailystar.co.uk/news/latest-news/605867/north-korea-fires-ballist-C-missile-launch-japan-economic-zone>
- North Korea: A Family Tree of the Kim Dynasty*. (n.d.). Retrieved December 01, 2017, from <http://time.com/4681304/north-korea-kim-family-album/>
- North Korea Spends About Third of Income on Military Group*. Retrieved January 18t, 2011 from <https://ca.reuters.com/article/topNews/idCATRE70H1BW20110118>
- Ritzen, Y. (2017). *North Korea: All you need to know explained in graphics*. Received December 01, 2017, from <https://www.aljazeera.com/indepth/interactive/2017/08/north-korea-explained-graphics-170810121538674.html>
- Sang-hun, C. (2017, August 10). *Meet Kim Jong-un, a Moody Young Man With a Nuclear Arsenal*. Retrieved December 01, 2017, from <https://www.nytimes.com/2017/08/10/world/asia/kim-jong-un-north-korea-nuclear.html>
- Sawe, B. E. (2016, November 24). *What Type of Government Does North Korea Have?* Retrieved December 01, 2017, from
- Sim, D. (2016). *Japan: Photos of the devastated cities of Hiroshima and Nagasaki after US atomic bombs*. Retrieved November 30, 2017, from <http://www.ibtimes.co.uk/japan-photos-devastated-cities-hiroshima-nagasaki-After-us-atomic-bombs-1562334>

参考文献 3/3

- The World Factbook*. (n.d.). Retrieved December 01, 2017, from https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/geos/print_kn.html
- Think. (2002-2007). *The Victims*. Retrieved from <http://think.s52.xrea.com/THINK/right3.htm>
- Tweed, D., & Mohsin, S. (2017, September 25). *Why New U.S. Sanctions on North Korea Could Bite*. Retrieved December 01, 2017, from <https://www.bloomberg.com/news/articles/2017-09-25/why-new-u-s-sanctions-on-north-korea-could-bite-quicktake-q-a>
- Rosenfeld, E.(2017). *How North Korea's latest test compares to past atomic blasts*. Retrieved November 30, 2017, from www.cnbc.com/2017/09/04/heres-just-how-powerful-north-koreas-nukes-Have-grown.html
- 南北首脳会談 北朝鮮メディアは「歴史的」と称賛 - BBCニュース. (2018, April 28). Retrieved April 30, 2018, from <http://www.bbc.com/japanese/43920684>
- 論点:南北首脳会談. (2018, April 27). Retrieved April 30, 2018, from <https://mainichi.jp/articles/20180428/ddm/005/070/015000c>

謝辞

アドバイザー

斎藤-アボット佳子教授、関根繁子教授

ご協力

デイヴィッド・ベネット、
クリスティーナ・ファーナンデイズ教授、
ガス・レナード教授、
小垣朋子教授、アン・ファム教授